

外国の方との出会いを通して

北海道 亀田中学校 2年 橘 麻依

私が思う親切な人とは、あたりまえのことをあたりまえにできる人のことだと思います。私はほんの少し前まで、「人前で困っている人を助けるなんて、私にはできない」と思っていました。しかし、あるできごとでその考えを改めることができたのです。

学校からの帰り道、私は友達と他愛もない話をしながら歩いていました。すると突然、「あの……。」

どうやら外国の方のようでした。日本語がうまく話せる様子もなく、私たちは困り果てていました。

すると、その外国の方が私たちに1枚の紙を見せてきました。そこには、行き先が「入舟町」と書いてあり、その目的地の住所も書いてありました。その方が、「タクシー……。」とつぶやいたので、私の友達にタクシー会社の連絡先を調べてもらい、近くに公衆電話があったので、持っていたテレホンカードで勇気を出して電話をかけてみました。そのとき私は、タクシーを呼ぶのが初めてだったし、日本人同士ならいいものの、あまりその人のこともよくわからないし、行き先もあやふやだったので、本当にこんな状態で電話をかけていいのかと思いました。

「もしもし。」

タクシー会社の方が出ました。一瞬戸惑ったものの、そのときわかっている外国の方の情報を、なるべくわかりやすいように伝えました。名前、性別、行き先、聞かれたことに対して答えるのが、こんなに難しいのかと思いました。

しばらくタクシー会社の方とやり取りをしていると、ようやく伝わったのか、この場所にタクシーが来ることになりました。そのことを、ジェスチャーなどを使ってなんとかその外国の方に伝えると、何度も何度もカタコトの日本語で「アリガトウ」と、頭を下げながら私たちに言いました。私たちも「こちらこそ、よかったですね」と、今まで感じたことのないような達成感と幸福感で胸がいっぱいになりました。

しばらく待っていると、タクシーが公衆電話の前に来て、外国の方を乗せて入舟町へと出発していきました。去り際に、運転手さんと外国の方の両方に頭を下げられて、とても自分が誇らしく幸せな気持ちになりました。

声をかけられたとき、一瞬、(私なんか外国人の案内なんてできない)と断ろうとする気持ちもありましたが、あのときの小さな親切で、私も友達も外国の方も、幸せな気持ちになることができました。もし、あのとき私たちが外国の方を無視していたら、あの方はどうなっていたでしょうか。きっと、苦労したに違いありません。

今回の私の実体験を通して、小さな親切でも、他人にとっては大きな親切になることもあり、その小さく踏み出した一歩が、たくさんの幸せな感情や達成感を呼び寄せられるのだと思いました。これからは、困っている人がいたら、声をかけてくるのを待つのではなく、自分から進んで人助けができる中学生になりたいです。